



●お茶と花の香りに誘われて

狭山新茶と花いっぱいまつり

4月29日・みどりの日、市役所駐車場
 「狭山新茶と花いっぱいまつり」が行われま
 した。今年で18回を迎えるこのイベン
 トは、市内で一番早く新茶を味わえる、茶ど
 りの狭山ならではの催しです。今年も約2万
 人が来場し、会場全体が活気にあふれまし
 た。中でも人気を呼んだのは、会場内の茶園
 で行う茶摘み体験。参加者は慣れない手つ
 きで、柔らかい若芽を一つひとつ丁寧に摘
 み取り、新茶の季節の訪れを喜びました。ほ
 かにも、茶の苗木や花の無料配布、ステー
 ジアトラクションや模擬店など盛りだくさん
 の内容で、本格的な春を満喫できた一日に
 なりました。

あなたが写っていませんか？広報さ
 やまに掲載した写真は、広報課で撮
 影したものでしたら無料で差し上げ
 ます。広報課までご連絡ください。

トピックス TOPICS

●幕末の音色 げっきん 月琴

レクチャーコンサート

4月10日(日) 博物館で幕末期の文化人が好
 んだ楽器・月琴をテーマにレクチャーコンサ
 ートが行われました。この楽器は坂本龍馬をは
 じめとする幕末の志士たちが愛した弦楽器です。
 訪れた230名は普段聞くことのできない音色に
 静かに耳を傾けていました。



月琴は、江戸時代に中国か
 ら伝わった弦楽器です

●春の陽気の中ゆっくりお花見

狭山稲荷山公園の桜が満開

青空の下、お弁当を
 広げて満開の桜を楽
 しむ人たち



4月1~13日、ライト
 アップされ、幻想
 的な景色を映し出
 す桜

市内の桜が4月上旬に満開となりました。今年
 は例年よりも遅い開花となりましたが、特に休
 日になると、狭山稲荷山公園にはたくさん
 の人が訪れ、満開の桜を楽しみました。ま
 た、夜間開園の期間中は、ライトアップさ
 れた桜が昼とは違った姿をみせました。

●夏に向けて衣替え！

こども動物園でヒツジの毛刈り

4月29・30日(祝・土) ヒツジの毛刈りをこ
 ども動物園で行いました。ヒツジは厚い毛で覆
 われていますが、毛が抜け替わらないため夏
 を迎えるまでに、人の手で刈らなければなり
 ません。毛を刈られたヒツジたちは、さっぱり
 してとても気持ちよさそうでした。



一頭のヒツジからは
 4~5kgの毛が刈られ
 ました

ムカシトンボ(ムカシトンボ科)



化石時代のトンボに似ていることから、生きた化石といわれ世界的に有名なトンボです。腹長は36mm~40mm、前後の羽が同じ形をしていて、北海

道から九州にかけて分布し、溪流沿いで見かけることもあります。市内では、入間川の河川敷で見られます。成虫は4月下旬ごろより羽化し、5月上・中旬を中心に生殖期を迎えます。

新狭山小学校



●トークタイムで

もっとみんなとお話をしよう!

心を通わせ「伝え合う力」を高める国語科授業の創造をテーマに、平成15年度から継続してトークタイムを行っています。この時間では、人間関係を円滑にし、心を通わせることや自分の考えを表現し、相手の言葉を正確に理解することをゲーム感覚で楽しんでいます。児童からは「友達のことがもっとわかって、もっと好きになった」などの声が聞かれ、会話の大切さを学んでいます。

●外国のお友達のために日本語教室

新狭山小学校区内では外国籍の児童が多いので、10年ほど前から、個別で日本語を教える時間を設けています。発音や読み・書きはもちろんのこと、掛け算九九など学習に沿った日本語を教えています。



●「茶の木賞」と「花いっぱいコンクール」の表彰

狭山市コミュニティ推進協議会では、日ごろから住みよい地域社会の実現のため地道な活動を続けている個人や団体に「茶の木賞」を贈呈しました。また「花と緑のまちづくり」事業の一環として行われた、第2回花いっぱいコンクールで最優秀賞を受賞された方々を表彰しました。皆さんおめでとうございます。



茶の木賞/個人 池田紀子 伊藤宗二 梅沢弥三郎
小暮次勇 小林義昭 多田千恵子 土淵直江 千葉良秋
団体 月曜会 バックの会 福祉プラザ連絡会 山鳩子供会
花いっぱいコンクール最優秀賞/庭部門上野幸子
鉢部門木村泰子 店舗部門指田絹子 学校部門山王小学校
団体部門NPOグリーンオフィスさやま

●こいのぼりが大集合!

4月11日(月)~5月13日(金)大生病院の駐車場で市民の方から寄せられた50本以上のこいのぼりが道行く人の目を楽しませました。



●手打ちうどん作りは健康作り

狭山の抹茶、明松(あきまつ)を使用したうどん作り



4月19日(火)富士見公民館で手打ちうどん作り教室が行われました。手打ちうどん作りは思いのほか重労働で、15名の参加者は汗をかきながら生地を伸ばしていきました。そして、打ちあがったうどんを食べてもらうときの喜びを想像しながら、和気あいあいとうどん作りを楽しみました。